

教員氏名：小屋 美香（保育学科／教授）

1. 教育の責任（何をやっているか）

主な担当科目は、「乳児保育Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（保育所）」「絵本学」「キャリアデザイン」「専門ゼミ」である。

「乳児保育Ⅰ」では、乳児期の発達や生活、遊び、保育者の援助などについて学ぶ。約150名を対象とした講義科目であるが、一方向的な知識伝達にならないよう、映像教材や実物教材、学生同士の対話、小グループでの活動などを取り入れ、乳児の姿を具体的にイメージできる授業づくりを心掛けている。また、命の重みや、実際の保育現場とつながるエピソードも大切にしている。

「保育実習指導Ⅰ（保育所）」では、実習に向けた心構えや記録の書き方、子ども理解、保育者としての姿勢などについて指導している。実習に不安を抱える学生も多いため、安心して実習に臨めるよう、一人ひとりの思いに寄り添いながら支援を行っている。また、個別の事後指導では、経験を振り返りながら次の実習や将来の保育実践へとつながる学びになることを意識している。

「絵本学」では、認定絵本士養成講座の責任者として、絵本に関する知識・技能・感性を育む教育を行っている。絵本の読み方や選書だけでなく、絵本を通して子どもたちの世界を広げることや、様々な価値観、地域とのつながりについても幅広く考える授業を展開している。また、絵本作家、編集者、書店関係者、司書、声優など、多様なゲストスピーカーを招き、学生たちの視野を広げている。

「キャリアデザイン」では、保育学科の一年生を対象に、複数担任体制で学生生活への適応や将来の進路形成を支援している。大学での学び方や保育者としてのキャリア形成について考える機会を設けるとともに、学生同士や教員との対話を通して、安心して学び続けられる関係づくりを大切にしている。

「専門ゼミ」では、『ワクワクする保育環境とは何か』をテーマに、絵本・おもちゃ・遊び・環境構成などについて探究している。おもちゃ専門店や絵本専門店、原画展等での学外活動、地域との交流、実践的なワークショップなども取り入れながら、学生が主体的に学ぶ姿勢を育てている。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

保育者養成において大切なのは、知識や技術だけではなく、「子どもの姿を感じ取る感性」と「他者とつながりながら学び続ける力」であると考えている。

また、保育においては、子ども一人ひとりに愛情をもって丁寧に関わること、そして保護者の思いや不安に寄り添う視点が重要である。授業では、知識や技術の習得だけでなく、子どもや保護者の立場に立って考えることのできる保育者の育成を目指している。

そのため、授業では学生が受け身になるのではなく、自ら考え、対話し、体験しながら学ぶことを重視している。また、教室内だけで完結するのではなく、地域の保育実践や絵本文化、人との出会いなどを通して、保育の魅力や社会とのつながりを実感できる学びを大切にしている。

特に、絵本や遊びには、人と人をつなぎ、子どもの育ちを支える大きな力がある。絵本やおもちゃといった物的環境を単なる教材としてではなく、子どもの安心感や主体性、豊かな表現を支える「保育環境」として捉え、その視点を学生にも伝えている。

また、自らも絵本専門士、JPIC 読書アドバイザー、おもちゃコンサルタント、木育インストラクター、子ども環境アドバイザー、LEGO® SERIOUS PLAY®ファシリテーター、青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラムなどを通して学び続けている。そうした学びを、授業や保育者研修、地域活動へ還元しながら、実践と理論を往還する教育を目指している。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

授業では、「体験」「対話」「振り返り」を重視している。

講義形式の授業においても、学生同士で意見交換を行う時間や、実際に絵本を読んだり、おもちゃに触れたりする活動を積極的に取り入れている。学生が自ら感じ、考えたことを言葉にすることで、学びが深まると考えている。

ワークショップデザインなど、自身が学んできた参加型プログラムの手法も授業に取り入れている。学生が主体的に考え、対話し、多様な価値観に触れながら学べるよう、体験型・参加型の授業づくりを行っている。

また、実際の保育現場とのつながりを大切にし、園見学や地域活動、ゲストスピーカーによる講義など、教室外での学びも積極的に取り入れている。専門ゼミでは、絵本専門店

の見学や地域イベントへの参加など、実践的な活動を通して、保育を多面的に捉える視点を育てている。

さらに、保育者研修や地域での読み聞かせ活動など、自身の実践活動も授業に生かしている。現場の具体的なエピソードや実践事例を共有することで、学生が保育をより身近に感じられるよう工夫している。

特に、子育て支援や保護者支援に関する内容については、保育者の言葉掛けや関わり方によって、保護者の安心感や子どもの姿が大きく変化することを具体的な事例を通して伝えている。学生が、保護者の背景や思いを想像しながら、丁寧に関わる姿勢を身につけられるよう意識している。

学生との関わりにおいては、「安心して話せる関係づくり」を大切にしている。実習や進路への不安を抱える学生も多いため、対話を通して一人ひとりに寄り添いながら支援を行っている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

授業後の振り返りでは、「子どもの姿を具体的にイメージできた」「保育の見方が変わった」「絵本や遊びの奥深さを感じた」といった感想が多く見られる。

また、「子どもの気持ちを考えるようになった」「保護者への見方が変わった」「丁寧に関わることの大切さを実感した」といった声も聞かれ、子ども理解や保護者支援に対する意識の深まりにつながっている。ありがたいことに、授業後のアンケートでは高評価をいただき、優良教員表彰をこれまでに何度も受けている。

実習指導では、不安を抱えていた学生が実習後に自信を深め、子ども理解や保育者としての課題を主体的に考える姿が見られるようになっている。

絵本学では、認定絵本士資格取得後も、地域でのおはなし会や読み聞かせ活動、保育現場での実践へと学びをつなげている卒業生も多い。授業をきっかけに、絵本や子ども文化への関心を深める学生も増えている。

専門ゼミでは、学外活動や地域との交流を通して、学生が主体的に企画・発信する力を育てている。学生発表や地域イベントへの参加を通して、自分の考えを言葉にし、多様な立場の人と協働する経験にもつながっている。

さらに、地域の保育者研修や絵本イベント、読み聞かせ活動など、大学外での実践を継

続することで、地域との連携や保育文化の発展にも取り組んでいる。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

今後も、学生が「知識としての保育」だけではなく、「実感を伴った保育」を学べる教育を目指していきたい。

特に、絵本や遊び、環境構成などを通して、子どもの主体性や安心感を支える保育について、さらに探究を深めていきたいと考えている。また、絵本環境に関する研究活動にも継続的に取り組み、絵本が子どもの育ちや人との関係性、保育環境にどのような影響を与えるのかについて、実践と研究の両面から明らかにしていきたい。地域との連携や学外活動を通して、学生が多様な人や価値観と出会いながら学べる機会も広げていきたい。

短期的な目標としては、授業における対話的・体験的な学びをさらに充実させ、学生が主体的に学べる授業改善を進める。絵本や保育環境に関する実践事例を収集し、授業やゼミ活動へ積極的に取り入れる。地域の保育施設や絵本専門店、図書館等との連携を深め、学生の学外活動の機会を増やす。

中期的な目標としては、絵本環境に関する研究成果を学会や研究会等で発信し、教育実践へ還元していく。認定絵本土養成講座や専門ゼミを通して、地域における絵本文化の発展に寄与する活動を広げる。保育現場と大学をつなぐ実践的な学びの場を構築し、学生・保育者・地域が協働できるネットワークづくりを進めていきたいと考えている。

目標達成のための具体的な行動として、絵本環境や保育環境に関する文献研究・実践研究を継続し、研究会や学会へ積極的に参加する。地域の保育施設や図書館、書店等と連携したワークショップや読み聞かせ活動を企画・実施する。授業アンケートや学生との対話を通して授業改善を継続的に行い、学びの質向上につなげる。自身の実践や研究成果を論文、研修、講演等を通して発信し、地域社会や保育現場へ還元していく。

そして、自らも継続して学び続けながら、新たな知見や実践を授業へ還元し、保育現場や地域社会に貢献できる保育者養成に取り組んでいきたいと考えている。

（2026年6月3日現在）